

質 疑 要 旨	答 弁 者	答 弁 要 旨
<p>1. 学校選択制について</p> <p>私はかねてから小中学校においては競争原理の必要性と、保護者の選択肢を増やすという視点から、学校選択制を導入するよう主張している。しかし、なかなか実現していない。制度を導入できない理由として教育委員会は、ひとつには児童生徒の通学距離が遠くなり、通学に負担が伴ううえに通学の際の危険が増すことを挙げている。ふたつめには地域のコミュニティが崩れることである。学校に通う子どもたちの住居がばらばらのため、その地域にある学校への求心力が弱まり、その結果、いまは小学校区を中心に活動しているコミュニティ活動が廃れるのではないかと懸念されるというのである。しかし、私としてはそういう理由には納得がいかない。ひとつ目の通学距離が遠くなるということについては、神戸市内のすべての学校から自由に選択せよと言っているわけではない。たとえば近くにあるいくつかの学校をグループにして、そのグループからいずれかの学校を選択すれば、距離の問題は解消する。また、ふたつめのコミュニティの崩壊の点については、区域から通学している学校が異なるからといって、あるいは区域の学校に地元以外の様々な地域から児童生徒が通学しているからといって、地域の方々が地元の学校に愛着を持たなくなったり、コミュニティの結束に支障をきたすとは思われない。</p> <p>学校選択性については東京都品川区で平成12年度に導入されたのを皮切りに、これまで全国で約15%の自治体が実施していると聞いている。導入した際、自治体に起きる様々な事例が積み重なってきていることはご存知の通りである。仮に神戸の小中学校で導入すれば、どのような問題点があると考えているのか。</p>	<p>永 井 教 育 長</p>	<p>ご指摘のとおり15%の自治体で学校選択性が実施されている。これにも様々なやり方があり、大きく3つある。1つは全ての区域で自由に学校を選べるもので、15%のうちの1.5%である。2つめが隣接する学校のみ選択できるもので、これが3%である。3つめは特定の学校に限って選択できるもので、5%である。神戸市でも3つめの特定の学校のみを選択性を藍那と六甲山で実施をしている。学校選択性を導入する自治体の中には、見直しをしている動きがあり、その理由として、ひとつは学校規模の格差が拡大したこと。2つめは通学の安全確保ができないこと。3つめは地域との関係の希薄化などの課題があると聞いている。具体的には、坂の上に立地する学校の人数が大幅に減少したという。神戸は坂が多いため、地形による似たような結果があるかもしれない。</p> <p>通学の安全性は小学生であるから、地理がわからないだとか、地震がおきたらといった問題も現実的に出てくる。地域との関係の希薄化については、東日本大震災の当日に児童生徒を安全に下校させることが困難だったなどの事例が挙げられているため、神戸でも慎重に検討していかなければならない。</p>

質 疑 要 旨	答 弁 者	答 弁 要 旨
<p>(再質問)</p> <p>子どものことを第一に、ということについては私も理解する。子どもの安全、これは当然である。子どもがよい教育を受けていける神戸市ということで、日ごろから言っているが、子育て日本一の街の中に小学生、中学生のことも入ってくる。教育長がいくつか理由を挙げていた。私はその理由を理解しながらも、それでも実施してもらえればと思っていますところが大きい。教育長の答弁に、六甲山小学校における特認校制度についての話があった。導入して10年になるとのことだが、その間の成果をどのように検証し、今後、どのように繋げていこうとしているのか伺いたい。</p> <p>(要望)</p> <p>六甲山の豊かな自然が生かされたのではないかと。子どもの教育に大変大きな役割を果たしたのであろう。その意味からも、様々な学校が様々な特色を持つということで、子どもが選んで行けるような学校というのは、非常に良いことと思う。</p> <p>サッカーの選手になりたい、サッカー部に入りたいという場合、自分が行かなければならない学校にはサッカー部が無いということで、断念しなければならないというのは気の毒だ。そのような子どものことも含めて、子育て日本一の街、神戸を作ることに、教育が果たさなければならぬ役割は非常に大きなものがある。そのことを自覚してもらいたい。</p>	<p>井 川 総務部長</p>	<p>六甲山小学校は、平成14年に神戸で初めての特認校となり10年が経過した。小規模の学校としての特認校であるが、設置する主旨は自然環境に恵まれた特色ある教育の推進であり、そういった小規模な学校に通学することで、子どもたちの心身の健康増進を図ることである。豊かな人間性が培われ、学校においても子どもの数が増え、学校生活の活性化に繋がるといったことを主旨とした。具体的に入學される例としては、もとにいた学校で不登校であった生徒が、特認校に行き、他の子どもたちと関わり不登校が回復してきたという事例もみられる。特認になる以前は6ヵ年とも全て複式学級であった。1年生と2年生、3年生と4年生、5年生と6年生の3つのクラスしか無かったが、平成23年度は42名おり、複式学級を解消できた。六甲山の豊かな自然を生かした教育が、子どもたちに受入れられているのではないかと。それと共に地域の活性化に貢献できているのではないかと考えている。10年間で一定の生徒数が継続している。それは六甲山小学校の評価がされているからだと考えている。</p>